

日本文学専攻分野科目

| 授業科目 | 講義題目 | 単位 | 担当教員氏名 | 曜日・講時 | 平成30年度以前入学者 読替先授業科目 |
|-------------|-----------------------|----|---------------------|-------------|------------------------|
| 日本文芸形成論特論Ⅰ | 室生犀星の王朝小説 | 2 | 横溝 博 | 後期 水曜日 4講時 | |
| 日本文芸形成論特論Ⅱ | 〈歴史〉の表現史 | 2 | 佐倉 由泰 | 後期 水曜日 5講時 | |
| 日本文芸形成論特論Ⅲ | 〈継承〉と〈再創造〉の諸問題 | 2 | 仁平 政人 | 前期 水曜日 4講時 | |
| 日本文芸形成論特論Ⅳ | 古典文学における「陸奥」 | 2 | 松本 真奈美 | 前期集中 その他 連講 | |
| 日本文学総合演習Ⅰ | 日本文学史の考究とその論述 | 2 | 佐倉 由泰、横溝 博 仁平 政人 | 前期 火曜日 4講時 | |
| 日本文学総合演習Ⅱ | 日本文学史の考究とその論述 | 2 | 佐倉 由泰、横溝 博 仁平 政人 | 後期 火曜日 4講時 | |
| 日本古典文学研究演習Ⅰ | 『石清水物語』の探究 | 2 | 横溝 博 | 前期 月曜日 4講時 | |
| 日本古典文学研究演習Ⅱ | 『石清水物語』の探究 | 2 | 横溝 博 | 後期 月曜日 4講時 | |
| 日本古典文学研究演習Ⅲ | 中世の日記文芸、紀行文芸の 表現形成 | 2 | 佐倉 由泰 | 前期 木曜日 2講時 | |
| 日本古典文学研究演習Ⅳ | 中世の日記文芸、紀行文芸の 表現形成 | 2 | 佐倉 由泰 | 後期 木曜日 2講時 | |
| 日本近代文学研究演習Ⅰ | 大正期の短編小説の研究 | 2 | 仁平 政人 | 前期 水曜日 2講時 | |
| 日本近代文学研究演習Ⅱ | 大正期の短編小説の研究 | 2 | 仁平 政人 | 後期 水曜日 2講時 | |

科目名：日本文芸形成論特論 I / Study of Formation of Japanese Literature (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LM23401, 科目ナンバリング：LJS-LIT601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：室生犀星の王朝小説

2. Course Title (授業題目)：Murou Saisei's dynasty novel

3. 授業の目的と概要：室生犀星の王朝小説を原典の古典作品と読み比べることで、古典文学の世界を近代小説の翻案を通して学ぶ。授業の進め方としては、各回に指定されている犀星の王朝小説と原典となっている古典作品をあらかじめ精読し、教室では読書会形式をとることで、鑑賞を交えた批評を自由に述べてディスカッションしていく。教員はモデレーター役を務めるが、受講生全員が意見を述べ応答し合うインタラクティブな場を作り、継続的なテーマを発見していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will learn the world of classical literature through adaptations of modern novels by reading and comparing Murou Saisei's dynasty novel with the classic works of the original text. As for how to proceed with the class, carefully read Saisei's dynasty novel designated for each lesson and the classic works that are the original texts in advance, and take the form of a reading party in the classroom to freely state and discuss criticisms including appreciation. The faculty will act as a moderator, but the aim is to create an interactive place where all the students can express their opinions and respond to each other, and discover continuous themes.

5. 学習の到達目標：・室生犀星の王朝小説を原典と読み比べることで、それぞれのテキストの世界観の相違について学ぶ。

・原典となった古典作品の表現を学び、テキスト読解の方法を身につける。

・王朝小説における古典作品の翻案のありようについて学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：・ Learn about the differences in the worldview of each text by reading and comparing Murou Saisei's dynasty novel with the original texts.

・ Learn the expressions of the original classic works and learn how to read texts.

・ Learn about the adaptation of classic works in dynasty novels.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

室生犀星の王朝小説のうち、原典が特定される作品を輪読する。授業は対話的に行い、質疑応答をメインとしながら、王朝小説および古典作品への理解を深めていく。また、作品の初出誌や収録された単行本についても目配りすることで、作品が発表された当時の社会状況や掲載されたメディアとの関係性についても学んでいく。(以下の進度および作品は例です。実際は受講者の希望によってテキストを選択します。)

01. ガイダンス～授業の進めかた
02. 導入～室生犀星の王朝小説と古典作品
03. 「姫たちばな」(『大和物語』)
04. 「花桐」(『伊勢物語』)
05. 「巴」(『平家物語』)
06. 「筑紫日記」(『大和物語』)
07. 「あやの君」(『大和物語』)
08. 「狩衣」(『大和物語』)
09. 「萩吹く歌」(『大和物語』)
10. 「津の国人」(『大和物語』)
11. 「津の国人」(『大和物語』)
12. 「虫姫日記」(「虫めづる姫君」)
13. 「虫の章」(「虫めづる姫君」)
14. 「舌を噛み切った女～またはすて姫」
15. まとめ～王朝小説とは何か

8. 成績評価方法：

授業への参加(出席・質疑応答)(60%)、期末レポート(40%)。

9. 教科書および参考書：

【教科書】

室生朝子編『室生犀星全王朝物語 上下』(作品社、1982年)

岩波文庫『犀星王朝小品集』(岩波書店、2017年、第8刷)

【参考書】

三好達治他編『室生犀星全集』(全12巻、新潮社、1964-1968)

室生朝子、本多浩、星野晃一編『室生犀星文学年譜』(明治書院、1982)

大橋毅彦著『室生犀星への/からの地平』(若草書房、2000年)

高瀬真理子著『室生犀星研究 小説的世界の生成と展開』(翰林書房、2006年)

西田谷洋編『室生犀星王朝小説の世界』(一粒社、2012年)

九里順子著『室生犀星の詩法』（翰林書房、2013年）

能地克宜著『犀星という仮構』（森話社、2016年）

室生犀星記念館 <https://www.kanazawa-museum.jp/saisei/>

1 0. 授業時間外学習：【予習】 指定された室生犀星の王朝小説を、その原典となっている古典作品とともに可能な限り精読する。

【復習】 プロットを共有する他の王朝小説（授業時に補足説明します）を併せて読み、原典となった古典作品の他出（授業時に補足説明します）についても読むことで授業時の学習ポイントを明確にする。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：日本文芸形成論特論Ⅱ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM23501, 科目ナンバリング：LJS-LIT602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：(歴史)の表現史
2. Course Title (授業題目)：Research on History which Described Various Literary and Cultural History
3. 授業の目的と概要： 演習形式を取り入れた授業を通して、文学、文化、社会を語るさまざまな歴史叙述（研究史も含まれる）がどのように形成されてきたのかというその表現史について考究する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the mechanism of expressions of history which described literary and cultural history.
5. 学習の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、洞察力を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire advanced and specialized ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. はじめに
 2. 歴史を語る表現史とは一
 3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業時の発表 [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回の授業で取り上げるさまざまな記述をあらかじめ精読して授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、幅広く考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本文芸形成論特論Ⅲ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LM13401, 科目ナンバリング：LJS-LIT603J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：〈継承〉と〈再創造〉の諸問題

2. Course Title (授業題目)：“Inheritance” and “Re-creation” in Japanese Literature

3. 授業の目的と概要：この授業では、広義の「継承」と「再創造」という観点から、古典から近現代に至るまでの日本文学の生成および受容にまつわる諸問題について検討する。

授業は演習形式で、受講者は(1)自身の関心に基づく報告、(2)関連する文献の検討のいずれかを行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this class, we will examine various issues related to the creation and reception of Japanese literature from the perspective of “inheritance” and “re-creation.” This class will be conducted in the form of exercises.

5. 学習の到達目標：テキストを読解する能力を高めるとともに、日本文化および批評理論についての教養を蓄え、自身の研究に応用する視点を獲得する。また、口頭発表と討議を通してディベート力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To improve the ability to analyze texts and to acquire knowledge of Japanese culture and critical theory.

To develop debate skills through oral presentations and discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 担当者による口頭発表と討論

3. 担当者による口頭発表と討論

4. 担当者による口頭発表と討論

5. 担当者による口頭発表と討論

6. 担当者による口頭発表と討論

7. 担当者による口頭発表と討論

8. 担当者による口頭発表と討論

9. 担当者による口頭発表と討論

10. 担当者による口頭発表と討論

11. 担当者による口頭発表と討論

12. 担当者による口頭発表と討論

13. 担当者による口頭発表と討論

14. 担当者による口頭発表と討論

15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表(60%)・授業への参加(出席・質疑応答)(40%)

9. 教科書および参考書：

参考文献は授業中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げるテキストを受講者全員が事前に精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本文芸形成論特論Ⅳ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：集中 単位数：2

担当教員：松本 真奈美

コード：LM98809, 科目ナンバリング：LJS-LIT604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古典文学における「陸奥」
2. Course Title (授業題目)：“Michinoku” in Japanese classical literature
3. 授業の目的と概要：韻文学を中心とする日本の古典文学において、陸奥の諸地域がどのように表現されているかについて、具体的な作品を読み進める形をとりながら明らかにする。併せて、陸奥という地域にゆかりのある歌人・俳人たちがどのように生き、どのような作品を残したかについても紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will clarify how the various regions of “Michinoku” are expressed in Japanese classical literature centered on verse while reading the work. At the same time, this class will also introduce how the Waka poets and Haiku poets associated with the area called “Michinoku” lived and left their works.
5. 学習の到達目標：陸奥という地域の歴史を視野に入れつつ、古代から近世に至る陸奥ゆかりの文学作品の諸相について理解する。その理解に基づき、古典文学史における陸奥の位置づけを考察し、自分の言葉で説明できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand various aspects of literary works related to “Michinoku” from ancient times to early modern times, while keeping in mind the history of the region called “Michinoku”. Based on that understanding, students will be able to consider the position of “Michinoku” in the history of classical literature and explain it in your own words.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 授業ガイダンス、和歌・短歌・俳諧・俳句とは何か
 2. 『万葉集』と陸奥
 3. 『古今和歌集』と陸奥、歌枕とは何か
 4. 『伊勢物語』と陸奥
 5. 平兼盛、源重之と陸奥
 6. 藤原実方と陸奥
 7. 能因法師と陸奥
 8. 西行法師と陸奥
 9. 伊達政宗と陸奥
 10. 松尾芭蕉の生涯と『おくのほそ道』
 11. 『おくのほそ道』を読む — 旅立ちから遊行柳まで —
 12. 『おくのほそ道』を読む — 白河の関、笠島、武隈の松 —
 13. 『おくのほそ道』を読む — 宮城野、松島、平泉 —
 14. 『おくのほそ道』を読む — 立石寺、象潟 —
 15. 授業のまとめ
8. 成績評価方法：
 - ①授業への参加態度および各回授業後に提出を求める小レポート (40%)
 - ②最終レポート (60%)
9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布して授業を進める。参考書は授業時に紹介する。
10. 授業時間外学習：授業で取りあげる作品や人物について、概要を調べておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
講義科目ではあるが、随時受講者との意見交換を行いながら授業を展開する。

科目名：日本文学総合演習 I / Japanese Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰・横溝 博・仁平 政人

コード：LM12402, 科目ナンバリング：LJS-LIT605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本文学史の考究とその論述
2. Course Title (授業題目)：Research of History of Japanese Literature
3. 授業の目的と概要： 論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of individual expressions in Japanese literature works by practicing the writing of treatises, and position their significance widely in the history of literature and culture.
5. 学習の到達目標： 日本文学を着実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students comprehensively acquire advanced and specialized problem-finding ability, analytical ability, and conceptual ability necessary for steadily studying, discussing, and historically making sense of Japanese literature.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業における発表 [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。
参考書は、随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
この授業は I・II を連続して履修すること。

科目名：日本文学総合演習Ⅱ／ Japanese Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰.横溝 博.仁平 政人

コード：LM22402, 科目ナンバリング：LJS-LIT606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本文学史の考究とその論述

2. Course Title (授業題目)：Research of History of Japanese Literature

3. 授業の目的と概要： 論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of individual expressions in Japanese literature works by practicing the writing of treatises, and position their significance widely in the history of literature and culture.

5. 学習の到達目標： 日本文学を着実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students comprehensively acquire advanced and specialized problem-finding ability, analytical ability, and conceptual ability necessary for steadily studying, discussing, and historically making sense of Japanese literature.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 考察発表とそれにもとづく意見交換
2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業における発表 [60%]・授業への参加 [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。

参考書は、随時紹介する。

10. 授業時間外学習： 授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

この授業はⅠ・Ⅱを連続して履修すること。

科目名：日本古典文学研究演習 I / Study of Japanese Classical Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LM11401, 科目ナンバリング：LJS-LIT607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『石清水物語』の探究

2. Course Title (授業題目)：Study of "Iwashimizu Monogatari"

3. 授業の目的と概要：『石清水物語』を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will read the volume captioned from "Iwashimizu Monogatari". The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学習の到達目標：『石清水物語』を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造形のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：By carefully reading "Iwashimizu Monogatari", students will deepen your understanding of the fictional method of the story, the way the figure is modeled, the style of expression including narrative and waka poems, and the structure of the story. Learn how to use various annotations and various dictionaries, and acquire basic knowledge related to reading comprehension of works. Through the above, by improving the ability to "read" the story, students will acquire the basic knowledge and skills to tackle the problem researchfully.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

01. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)
02. 解説 (『石清水物語』の成立、内容、諸本、影響作について)
03. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
04. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
05. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
06. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
07. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
08. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
09. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 上巻の自由発表
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 上巻の自由発表
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート (発表のまとめ) の内容 [60%]、授業への参加 (質疑応答を含む) [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】三角洋一 校訂・訳注『中世王朝物語全集 5 石清水物語』(笠間書院、2016 年) を用いる。

【参考書】宮崎裕子『校本石清水物語』(新典社、2020 年)、宮崎裕子『石清水物語の研究 第三系統伝本の校本と影印』(新典社、

2014年)、関本真乃『後嵯峨院時代の物語の研究 『石清水物語』『苔の衣』』(和泉書院、2018年)。

10. 授業時間外学習: 毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他: なし

- ・本演習は、第6セメスターも連続して受講することが望ましい。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていきます。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅱ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LM21401, 科目ナンバリング：LJS-LIT608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：『石清水物語』の探究

2. Course Title (授業題目)：Study of "Iwashimizu Monogatari"

3. 授業の目的と概要：『石清水物語』を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジюмеとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will read the volume captioned from "Iwashimizu Monogatari". The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学習の到達目標：『石清水物語』を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By carefully reading "Iwashimizu Monogatari", students will deepen your understanding of the fictional method of the story, the way the figure is modeled, the style of expression including narrative and waka poems, and the structure of the story. Learn how to use various annotations and various dictionaries, and acquire basic knowledge related to reading comprehension of works. Through the above, by improving the ability to "read" the story, students will acquire the basic knowledge and skills to tackle the problem researchfully.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

01. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
02. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
03. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
04. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
05. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
06. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
07. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
08. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
09. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 下巻の自由発表
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 下巻の自由発表
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容 [60%]、授業への参加(質疑応答を含む) [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】三角洋一 校訂・訳注『中世王朝物語全集5 石清水物語』（笠間書院、2016年）を用いる。

【参考書】宮崎裕子『校本石清水物語』（新典社、2020年）、宮崎裕子『石清水物語の研究 第三系統伝本の校本と影印』（新典社、2014年）、関本真乃『後嵯峨院時代の物語の研究 『石清水物語』『苔の衣』』（和泉書院、2018年）。

10. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

- ・本演習は、第5セメスターから連続して受講すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていきます。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅲ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM14203, 科目ナンバリング：LJS-LIT609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世の日記文芸、紀行文芸の表現形成
2. Course Title (授業題目) : Reseach on literary diary and travel works in medieval Japan
3. 授業の目的と概要： 演習形式の授業を通して、『建礼門院右京大夫集』『海道記』『東関紀行』『十六夜日記』『とはずがたり』『竹むきが記』等の中世の日記文芸、紀行文芸の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかかわらせて考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, students will clarify the characteristics of literary diary and travel works in medieval Japan, and position their significance widely in the history of culture and society.
5. 学習の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students acquire advanced and specialized ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説
 2. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説
 3. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説
 4. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説
 5. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説
 6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 15. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習（中世の日記文芸、紀行文芸の表現形成）は、2学期も連続して履修すること。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅳ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LM24203, 科目ナンバリング：LJS-LIT610J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世の日記文芸、紀行文芸の表現形成
2. Course Title (授業題目) : Reseach on literary diary and travel works in medieval Japan
3. 授業の目的と概要： 演習形式の授業を通して、『建礼門院右京大夫集』『海道記』『東関紀行』『十六夜日記』『とはずがたり』『竹むきが記』等の中世の日記文芸、紀行文芸の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかかわらせて考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, students will clarify the characteristics of literary diary and travel works in medieval Japan, and position their significance widely in the history of culture and society.
5. 学習の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students acquire advanced and specialized ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 15. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本演習（中世の日記文芸、紀行文芸の表現形成）は、1学期から連続して履修すること。

科目名：日本近代文学研究演習 I / Study of Japanese Modern Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LM13202, 科目ナンバリング：LJS-LIT611J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：大正期の短編小説の研究

2. Course Title (授業題目)：Study on short stories in the Taisho period

3. 授業の目的と概要：この授業では、大正期（1912～1926）を中心として、1910～1920 年代に発表された多様な短篇小説について、文化的・社会的なコンテクストを視野に入れて分析し、その特性や意義を考察する。受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this exercise, we will analyze short stories published in the 1910s-1920s, mainly in the Taisho period (1912-1926), from various perspectives. Students will present the results of their analysis of the works they are assigned.

5. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。

(2) 大正期の日本における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze literary works and present the results of the analysis.

(2) To deepen understanding of the characteristics of literature in Japan during the Taisho era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ガイダンス 2—大正期文学の諸問題
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

9. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げるテキストを、受講者全員が事前に時間をかけて精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本演習は I・II を連続で履修すること。

科目名：日本近代文学研究演習Ⅱ／ Study of Japanese Modern Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LM23203, 科目ナンバリング：LJS-LIT612J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：大正期の短編小説の研究

2. Course Title (授業題目)：Study on short stories in the Taisho period

3. 授業の目的と概要：この授業では、大正期（1912～1926）を中心として、1910～1920年代に発表された多様な短篇小説について、文化的・社会的なコンテクストを視野に入れて分析し、その特性や意義を考察する。
受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this exercise, we will analyze short stories published in the 1910s-1920s, mainly in the Taisho period (1912-1926), from various perspectives. Students will present the results of their analysis of the works they are assigned.

5. 学習の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。

(2) 大正期の日本における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze literary works and present the results of the analysis.

(2) To deepen understanding of the characteristics of literature in Japan during the Taisho era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 担当者による口頭発表と討論
2. 担当者による口頭発表と討論
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

9. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げるテキストを、受講者全員が事前に時間をかけて精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本演習はⅠ・Ⅱを連続で履修すること。